



学校だより

桐里っ子 HP版

須坂市立井上小学校

平成27年11月13日

文責：校長 宮坂

なかよし旬間が始まりました！11/9～11/20まで

井上小学校では、5月11日～22日までと11月9日～11月20日までの二回の期間を「なかよし旬間」として位置づけ、学年の発達段階や学級の実態に沿いながら、「みんなが幸せになる権利があること」や「これまでの人間関係や生活をふりかえりよりよい集団のあり方を考え合うこと」などを重点的に学習する期間としています。テーマは「ぼくも わたしも みんなも いい気持ち」。昇降口内に掲示しています。

秋のなかよし旬間に取り組む主な活動を紹介します。

○なかよし集会：みんなが見つけた「そっと咲いた〇〇さんのお花」を紹介したり、なかよし班でゲームをしたり、歌を歌います。（なかよし班＝全校を縦割りにした班です）

○なかよしタイム：いつもの月よりたくさん遊びます。

○校長講話：裏面をご覧ください。

○PTA人権教育部の皆さんの読み聞かせ

○児童会主催の交流活動：代表委員会が朝、ハイタッチ挨拶をしています。

○人権教育参観日＋PTA講演会：コーチングで、親子もみんなもHAPPYになれる！

☆いじめアンケート 結果を受けた教育相談の実施 等です。

是非ご家庭でも話題にしてみてください。



なかよしタイム
で異学年交流

秋のメセナに歌声響いて ♪

11月6日（金）には、市内卒業学年親善音楽会小学校が開催され、6年生が発表をしました。音楽会で歌った「前へ！」と、6年生が1年生の時から歌い継いで井上小で大事にしている「命～電池が切れるまで～」です。何があっても前を向いて生きていく強さを、歌声で伝えてくれました。STVでの放映はこれから。是非チェックして下さい。

翌日7日（土）は上高井PTA音楽祭でした。PTAコーラス部を中心に組織されている井上コーラスの皆さんで、校内音楽会でも披露した「あの素晴らしい愛をもう一度」「HAIL HOLY QUEEN」の2曲を気持ちよく歌ってきました。小林教育長に明るい歌声を褒めていただきました。



1・2・3年スケート教室In Mウエーブ

12日（木）には、低学年がそろってスケート教室へ。少々早めの「スキーウエア」や手袋で準備万端。経験者の3年生は、ついていきなり自由滑走からスタートです。2年生は復習から。1年生は立ち方・歩き方から。後半は1～3年までみんな自由滑走です。どんどん上手になりました。毎年、靴はきを含めた身支度や見守りで、保護者の皆様のボランティアをお願いしています。今回もたくさんの温かな目に見守っていただきました。ありがとうございました！！

ありがとう！



☆13日（金）には、4年松組と桜・梅組の国語学習で、先生方が授業研究を行いました。

校長講話「命…電池が切れるまで 人権同和教育旬間にむけて」の概要をお知らせします。



10月より毎朝、放送で流れている「命 ～電池がきるまで～」は、今から6年前に本校音楽専科の小林理恵先生が宮越ゆきなさんの詩に曲をつけ、井上小の皆さんが大事に歌い継いできた曲です。井上小の友だちを大切にし、自分も大切にすること、人権同和教育のシンボルとなっている曲です。

6年前にみなさんの先輩のPTAの皆さんが、人権同和教育についてメセナホールで発表した時に、須坂市民の皆さんにも広く紹介することができました。その年の10月23日に行われたPTA講演会です。講師は「命」の作者 宮越ゆきなさんのお母さん、宮越陽子さんをお願いしました。

宮越ゆきなさんは小児性神経芽種というガン的一种にかかりました。小学校に入学する直前の年から亡くなる11歳まで、ゆきなさんがいかに精一杯生き、周りの人々を救う奇跡をなんども起こし、そして静かに息を引き取ったことを、温かく静かにお話して下さいました。5年6年の皆さんも事前学習をして、一緒にお話を聞きました。そして「命」の歌を歌って贈ったのです。



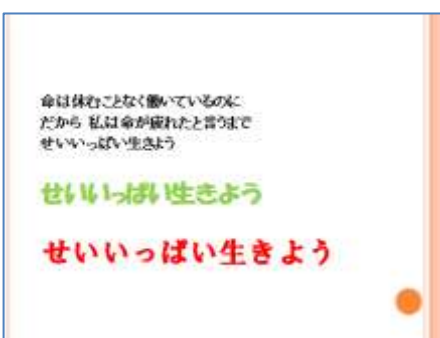
「今 あなたに贈りたい漢字」という小さな本の中で、福岡県の高校生 松尾さんという人が、こんなお話を紹介してくれています。皆さんはこの漢字は見たことがありますか？口に土とかいて、吐くと読みます。息をすって吐いての「吐く」、血を吐くの「吐く」などです。松尾さんは、3年の先輩から「人間は口からプラスのことも マイナスのこともいうから「吐く」という漢字がある」と言われたそうです。プラスのことというのは「いいな 元気が出るな 励

まされているな 褒めてもらってるな」といった ふわふわ言葉や元気がでる言葉です。マイナスというのは「嫌だな 元気がなくなるな 否定されているのかな 悪口かな」といった ちくちく言葉や元気を奪っていく思いやりのない言葉、聞いているだけで人間としての品が低下するような下品な言葉です。

先輩は、続けて「吐くからマイナスをとると叶うになる。」と教えてくれました。それから松尾さんは、マイナスの言葉は使わないでプラスの言葉を使うようにして夢を叶えていこうと思ったそうです。

実はこの「叶う」という漢字は、もともと「協」と同じ意味だそうです。協力の「協」です。力をたくさん合わせるということです。力という漢字は、農具の「すき」からできています。3本のすきを使う人たちが力を合わせることでできた漢字です。「叶う」という漢字と力を合わせるという意味の「協」が同じ意味をもつ漢字だというのは、とても面白いですね。力を合わせれば叶うことがたくさんあるということではないでしょうか。

もう一度 宮越ゆきなさんです。ゆきなさんはもっともっと生きたかった。11歳で命を終わらせたくはなかった。きっと「わたしだけなんで」「誰のせいなの」などマイナスの言葉もたくさん浮かんだことでしょう。でも、その短い命を恨んだり悲しんだりするのではなく、「せい



っぱい生きよう」と言っている。病気でも 短い命でも 算数が得意でも苦手でも うまい言葉が出て出なくても せいいっぱい生きようと言っています。精一杯生きるということはどういうことか。ただ生きていれば精一杯生きていることになるのか。できることをサボっているのは精一杯生きていることになるのか。自分の気持ちだけを優先して 友だちの気持ちを少しも思いやらないのは精一杯生きていることになるのか。なんでも誰かのせいにして 知らない振りをするのは精一杯生きていることなのか。「精一杯生きることとは 自分

分にとってはどういうことをいうのか」いつも 心に置いて生きていきたいものです。